

4 調査研究業務の概要

平成 28 年度実施課題一覧

①保健関係

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
地域保健情報の解析、評価及び活用に関する研究	福岡県地域がん登録情報とがん検診情報を用いた胃がん・肺がん検診精度の把握	がん検診における感度・特異度等の精度管理推進に向け、匿名化処理した福岡県地域がん登録情報とがん検診情報を照合し、精度指標把握の方法と技術的課題等について検証した。	28-29年度	P11
	レセプトデータを用いたがん・脳卒中・大腿骨頸部骨折における地域医療連携体制の評価	福岡県後期高齢者医療広域連合の平成22-27年度医科・DPCレセプトデータを用いて脳梗塞/脳出血/大腿骨頸部骨折における医療連携体制と医療資源利用についての解析を行い、その成果について学会発表・論文投稿を行った。	28-29年度	P11
	市町村国民健康保険の広域化に向けた保険者機能向上のための基礎的研究	レセプトデータに含まれる個人情報をもスキミングして受領できるプログラムを作成した。このプログラムを用いて、2つの保険者の健診・レセプトデータベースを構築し、糖尿病未治療者における受診開始・受診頻度が血糖コントロールに与える影響を定量的に明らかにした。	28-29年度	P11
感染症の発生及び食品の安全性確保に関する研究	トリ及びトリ肉に由来するヒト細菌性下痢症の原因菌に関する研究	平成 28 年度は、ヒト糞便、鶏肉、鶏糞排泄腔スワブ、鶏糞便、鶏盲腸便等のほか、農場の土壌及びふき取りスワブからカンピロバクター及びサルモネラ等のヒト細菌性下痢症原因菌の分離を試み、計 100 株を分離した。 分離菌株について血清型別及び遺伝子型別を実施した。 また、土壌、鶏肉、盲腸便等計 26 検体について、次世代型シーケンサーを用いた細菌叢解析及び多変量解析を実施した。	27-29年度	P15
	感染症発生動向調査事業におけるウイルス検査体制の強化	A549細胞を用いて分離された49株について、ペントン、ヘキソン、ファイバーの各遺伝子領域を解析し、アデノウイルスの遺伝子型を明らかにした。また、ノロウイルスGII.17について従来の解析領域を拡大し、分子疫学解析を行った。	27-29年度	P17
	レセプトデータを用いた福岡県内の高齢者における肺炎球菌感染症の実態調査	福岡県後期高齢者医療広域連合加入者のうち、平成 22 年度から 26 年度の入院患者の診療報酬明細書（レセプト）のデータを用いて、肺炎球菌肺炎の患者数等の実態について解析した。	28-29年度	P11

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
ダイオキシン類、有害化学物質による健康被害の防止とその対策に関する研究	残留性有機化学物質(POPs)による食品汚染実態と摂取量把握に関する研究	人体への影響が懸念されている残留性有機化学物質(POPs)として、農薬や臭素系及び塩素系の難燃剤などが注目されており、これらの化学物質に関する食品の安全性を把握するため、分析法検討、汚染実態調査及び一日摂取量調査を行う。	26-28年度	P19
	危険ドラッグ中指定薬物成分等の迅速構造推定法の検討	危険ドラッグ分析における分析対象成分は増大を続けており、新たな化合物の出現も相次いでいる。本研究では様々な指定薬物成分の分析に対応する為、LC/Q-TOF/MSを用いた分析法開発、データベース作成及び構造推定法の開発を行う。	27-28年度	P19
	油症等のダイオキシン類による人体影響と遺伝要因との関連の解明に関する研究 —家族間のダイオキシン類濃度と健康影響の解析—	福岡県を中心に発生した油症をはじめとするダイオキシン類のヒトへの健康被害及び次世代への影響における遺伝要因との関係を解明し、行政対応のための科学的データ蓄積に資する。	28-30年度	P19

②環境関係

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
ダイオキシン類、有害化学物質による環境汚染の防止とその対策に関する研究	有害化学物質の迅速スクリーニング法の開発	化学汚染に係る現行の公定法には、有害化学物質を網羅的に計測するような分析法は確立されていない。本研究では、マイクロ波技術を駆使して、環境試料中の有機汚染物質及び重金属類を同時にスクリーニングする手法の開発を行う。	25-28年度	P13
	水環境中微量有害化学物質の分析法開発と汚染実態の解明に関する研究	2,2',4,4'-テトラヒドロキシベンゾフェノン(2,2',4,4'-THBP)は紫外線吸収剤として使用されているが、内分泌かく乱作用等について懸念されている物質である。本研究では2,2',4,4'-THBPを選択的に定量できる分析法を新たに開発し、さらに福岡県内の汚染実態解明を行う。	27-29年度	P13
大気環境の保全に関する研究	光化学オキシダント及びPM _{2.5} 生成に寄与するVOCに関する研究	VOCのOx生成寄与については明らかになりつつあるが、時間変動を伴うVOC各成分のOx生成寄与については不明な点も多い。また、PM _{2.5} の生成にもVOCが関与していることが分かっているが、その生成寄与についてもやはり不明な点が多い。そこで本研究では、Ox及びPM _{2.5} 生成に寄与するVOCを把握するため、VOCの実態調査を行った。	28-30年度	P21

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
	福岡県における平常時の放射線・放射能の実態把握と上昇要因の解析	降雨時に採取された109検体の降下物のうち、49検体から全ベータ放射能が検出された。全ベータは年度後半に検出されることが多く、3月には最も多い10検体から検出された。降下物中のイオン分析の結果から全ベータ放射能とカリウムイオンの相関が高いことがわかった。また降雪時に全ベータ放射能が高く、雪はベータ線放出核種を捕集する効果が高いと考えられた。流跡線解析で大陸からの流れがあるときは、全ベータ放射能を検出する確率が高いこともわかった。	28-30年度	P21
水環境の保全に関する研究	水生生物保全に係る水質環境基準物質の汚濁機構に関する研究	平成28年度は、県内の事業場排水（73業種、118検体）及び合併浄化槽放流水（4箇所）についてLAS排出実態調査を行った。	27-29年度	P23
	アオコが生産するシアノトキシンのモニタリングに関する研究	福岡県内において有毒藍藻類が生産するシアノトキシンの実態を把握するため、LC/MS/MSを用いた簡易分析法の検討と大規模湖沼等での調査を行った。その結果、5箇所の大規模湖沼では、シアノトキシンは検出されなかったが、小規模のため池ではマイクロシスチンが微量に検出された。	28-29年度	P11
	生物応答を用いた水質評価に関する研究	環境省において事業場排水の水質評価に生物応答を用いた水質評価（通称；WET）の導入が検討されている。そこで平成28年度は、生物応答試験の実施体制を整えると共に標準物質による感受性試験を実施して試験体制に問題無いことを確認した。	28-30年度	P23
廃棄物の適正処理と有効利用に関する研究	最終処分場関連水における有機物指標等の特性と適正管理に関する研究	最終処分場の浸出水において、BODのみ特異的に高値を示すことがあり、その要因として硝化細菌由来のN-BODによる影響が疑われている。本研究では、最終処分場関連水の水質特性調査、N-BODの変動要因の解明、硝化細菌の影響を迅速に評価する測定方法を検討する。	26-28年度	P25
自然環境と生物多様性の保全に関する研究	福岡県における侵略的外来種の定着状況把握とその影響評価	福岡県の地域性をふまえ、特定外来生物の指定種に加えて法的には規制されていない侵略的外来種を含めたリスト（外来種ブラックリスト：仮称）を作成する。また、抽出された外来種が生態系等に与える影響を評価し、カテゴリー区分することにより、優先的に対策が必要な種を整理し、多様な主体による計画的な防除等の外来種対策に資する。	26-28年度	P27

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
	福岡県生物多様性戦略推進のための生物多様性指標の開発	福岡県生物多様性戦略において、都市や河川、ため池、水田、森林等の生物多様性の状況がわかる指標を開発し、市町村やNPO等が行う生物多様性評価や取組の進捗状況の把握等を支援し、保全の取組を促進することが記されている。そこで、本研究では、基礎的データ収集に基づいて、生物多様性評価を行うための新たな生物指標を開発する。	26-28年度	P27
	英彦山ブナ林生態系の保全・復元に関する研究	英彦山ブナ林は、台風被害等によりブナの衰弱・枯死が進み、最近シカの食害により林床植生が貧弱化している。英彦山ブナ林においてシカ防護ネット等による対策の有効性を検証し、ブナ林生態系の具体的かつ面的な保全・復元計画を検討する。	28-30年度	P27
計	20 課題			